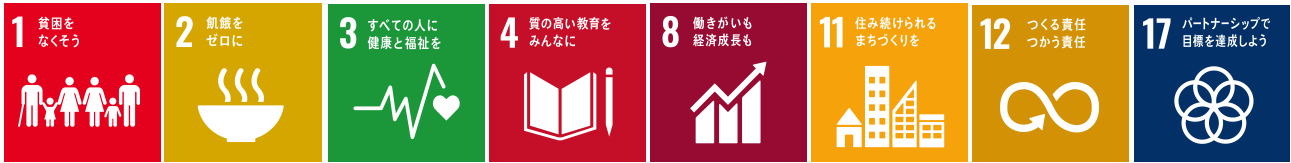


SDGs～持続可能な取組～



高齢者がつなぐ社会の絆～古代の市の復活から

奈良県立奈良情報商業高等学校・商業高等学校

部局たまつえ

課外活動

【動機】

「部局たまつえ」では桜井駅前の活性化のため、月1回駅前で「たまつえマルシェ」を開催している。物販と合わせ、社会もよくしていくための「CSV経営（※経営を通じて社会的な課題を解決し、『社会価値』と『企業価値』を両立させようとする考えのこと）」や「三方よし」の考え方をもち、社会問題となっている食品ロス削減のための「フードドライブ」などを仕掛けてきた。

このコロナ禍を背景に「高齢者が家にひきこもりがち」になっていることや、収入の減少による「生理の貧困」が社会問題となっている。そこで、桜井市にあった日本最古の市「海石榴市（つばいち）」を参考に「令和版海石榴市」を開催。高齢者の手作り品（ハンドメイド作品）を私たちが受託販売することで、桜井駅前の活性化と高齢者の生きがいを創出し、その「委託手数料（売上金額の1割）」などを原資に、「たまつえgirlsによる桜プロジェクト」を立ち上げ「生理の貧困対策」に取り組むことにした。



【具体的な目標】

- ①老若男女問わず、多くの人が集まる活気ある駅前にする。
- ②令和版海石榴市の開催で、昔の賑わいを取り戻し、多くの人の出会いの場とする。
(高齢者と若者が交流できる場に)
- ③高齢者の日々の生活にやる気ややりがいを生み出しQOL(※生活の質・人生の質を意味する)を向上する。
- ④生理用品を必要とする女性(中学生など救済の声を出にくい人)に提供し、生理の貧困をなくす。また誰もが快適に生理期間を過ごせるようにする。
- ⑤「人の役に立ちたいが、何をしたらよいかわからない」と感じている方が気軽に社会課題解決に協力できるようにする。



○具体的な取組内容

※現時点で実施した取組内容を記載

【令和版海石榴市】

生産者・出品者募集のチラシを作り募集を始めたところ、6件の応募があった。委託販売契約を結び、販売当日に使うのぼりやPOPの作成を6つのグループに分かれ実施。のぼりの色合いやデザインが重ならないよう、他のグループと連携しながら、出品者様の思いを込めて作成した。開催当日は、生憎の雨となったが、チラシを見た方たちが小売店では扱っていない珍しい商品を探求めて、多数来店していただき、ほぼすべての商品を完売することができた。

【桜プロジェクト】

プロジェクト1 校内の女子トイレに生理用品を設置

経済的事情だけでなく「生理用品をポーチに入れて、それを持ってトイレに行くこと」自体に恥じらいを感じてしまうという意見があった。校内に設置した所、生徒たちからは「すごい!」「急なときに助かる」といった声が聞かれた。また「保健室で借りたら返さなあかんけど、それがまた一手間やったから・・・」といった意見もあった。



プロジェクト2 桜井市と連携

2021年4月15日、桜井市役所を訪問し、総務部課長と社会福祉事務所所長と面会。本校のプロジェクトを説明したところ「市議会でもこの問題が取り上げられている。しかし、誰が担当するのか、どう進めていくのか本当に頭を悩ませていた。こうして高校生に背中を押していただくことができ、一気に前進することができます」と大変喜んでいただき、話はトントン拍子に進んだ。5月13日に連携発表会を行うことになり、早速市場調査を行い生理用品の仕入先を探し10万円分を準備。桜プロジェクトのロゴマークや案内用カードを作成した。連携発表会では松井市長に直接お渡しすることができた。



桜プロジェクトのロゴマーク(左)案内用カード(右)

プロジェクト3 桜井市教育委員会と連携

5月26日に桜井市教育委員会を訪問し「生理の貧困を考えたとき、一番声を上げづらいのが初潮を迎えた中学生ではないか。体の生理現象に対する知識の少なさや、生理について話し合える人間関係がないなど、声に出せないSOSを汲んで生理用品という形でつながりたい」とお伝えしたところ快諾していただき、6月30日に220パックを寄贈することができた。



松井正剛桜井市長へ生理用品をお渡し（左）
桜井市教育委員会 上田陽一教育長へ生理用品をお渡し（右）

○取組のまとめと今後の展望

※「現時点での中間まとめ（目標の達成状況・取組を通じた変容等）」や「今年度及び次年度以降の取組予定」を記載

今回の取り組みで、高齢者や地域の方が「経済活動や社会活動に参加するきっかけとなった」「家にいても、たくさんの人に喜んでもらおうと日々の生活のやる気ややりがいにつながった」「次への目標ができた」「誰かの役に少しでも立てていると思うと、私自身も幸せな気分になった」など嬉しいお言葉を多数いただいた。「食品ロス削減」や「生理の貧困対策」という社会問題に私たちだけでなく、行政機関も一緒になって貢献することができた。私たちだけではできないことも、地域連携が進んだ結果、シナジー効果が生まれ、予想以上の反響があった。その一つが、桜プロジェクトを持続可能な取り組みにするため、松井正剛市長の働きかけにより私たちの作った生徒開発商品がふるさと納税の「思いやり型返礼品（協賛型）」になったこと。ふるさとチョイスを運営しているトラストバンク社より「高校生が社会課題解決のために、ここまでの取り組みをしていることに驚きと感動がありました」との連絡をいただいた。持続可能な取り組みとなり、多くの人の生活の一助とできるよう、今後は県内全域に活動を広げていきたい。

今回、CSVの視点を取り入れ、すべての活動を一つにまとめて取り組むことで、バラバラの活動をうまく循環することができた。今後も、高齢者にスポットをあて、多くの行政機関を巻き込み、高校生ならではの強みを生かし、戦略的に事業展開していきたい。

